

## 課題解決型高度医療人材養成プログラム 事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔取組 1〕医師・歯科医師を対象とした事業  
 (1) 横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成  
 テーマ：病院経営支援に関する領域

整理番号		8
申請担当大学名 (連携大学名)	宮崎大学	
事業名	教育用電子カルテ活用による人材養成事業	
事業責任者	医学獣医学総合研究科長 浅田 祐士郎	
<b>事業の概要</b>		
<p>宮崎大学は 2011 年より電子カルテの個人情報をも匿名化した教育用電子カルテを開発した。これをケーススタディ教材とし修士課程高度医療関連技師・サービスイノベーション人材養成コースを開設した。本コースには附属病院（当院）で実施中の経営改善業務（HOMAS2 等の量的分析とケーススタディによる質的分析の併用）と同様の演習を含んでいる。</p> <p>本事業は、このコースを基に、医師、看護師等の医療専門職と経営担当の事務系職員を対象として、科目等履修生制度としての教育プログラム「経営改善アカデミー」を開発する。本プログラムでは参加病院のケーススタディ教材が重要である。当院は教材作成と運用の技術・知識を持ち、病院毎での教材作成と運用ガイドラインの開発を初年度より実施出来る。次年度からは、開発したプログラムを毎年 10 病院に実施し普及を図る。本事業は単なる人材養成ではなく、全国国立大学病院の経営改善の実践指導も含まれる。</p>		
<b>推進委員会からの主なコメント</b> ○：優れた点等、●：改善を要する点等		
<p>○全国の国立大学附属病院の職員を養成対象とする点は、波及効果が大きく優れている。</p> <p>○電子カルテの個人情報を匿名化した独自開発の教育用電子カルテを有効活用するという試みはユニークであり、新規性が高い。</p> <p>○事業の評価指標としてルーブリックの開発が明記されており、客観的な評価が期待できる。</p> <p>●病院経営支援という観点から、安全管理に関する科目の充実を図ることが望ましい。</p> <p>●非医療人や非大学人も交えた多角的視点からカリキュラムを開発することが望まれる。</p>		